

1 単元名 自然災害からくらしを守る

2 本単元の目標

自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりしてまとめ、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え表現することを通して、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習の問題を追究・解決し、学習したことを基に、地域社会の一員として、生活の在り方やこれからの地域社会の発展について考えようとする態度を養う。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知①過去の地域の自然災害、関係機関の協力などについて地図や年表などで調べ、必要な情報を集め、読み取り、災害から人々を守る活動を理解している。	思①過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、問いを見だし、災害から人々を守る活動について考え表現している。	態①自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
知②調べたことを文などにまとめ、関係機関や人々は自然災害に対し、協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、備えをしていることを理解している。	思②地域の自然災害と関係機関を関連付けてその働きを考えたり、学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現している。	態②学習したことを基に、よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。

4 単元について

(1) 教材観

本単元について解説では、「地域で起こりえる災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるよう配慮すること。」と示されている。そのため、起こりえる災害に対して、学習成果を基に自分たちにできることを選択・判断し、これからの社会生活に生かせるような学習場面を設定する必要がある。また、本単元は中学校の地理的分野や高等学校公共などの防災教育の基礎となる内容である。第4学年では地域の課題を扱い、社会的事象と自分の生活を関連付ける学習活動を行う。これらの学習活動を通して、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養いたい。

(2) 児童観

本学級の児童を対象に、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度について、実態調査（令和4年*月*日実施、第4学年*組*人）を行った。「住みよいくらしをつくる」の単元学習後に行った振り返りの記述による実態調査では、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとした児童は*人だった。この結果から、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度の学習指導に課題があることが分かった。

(3) 指導観

社会的事象と自分の生活を関連付け、選択・判断する学習活動の工夫を通して、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養いたいと考える。まず、一枚ポートフォリオシート（以下「OPPシート」という。）を活用する。OPPシートを活用し学習の履歴を記録し、学習状況に対してフィードバックすることで、社会的事象と自分の生活を関連付けて考え、自分事として捉えることができるようにする。次に、第二次では、防災プランを考えるパフォーマンス課題を取り入れる。課題解決を通して、安全な生活に必要なことを考えることができるようにする。そして、これらの活動を通して、児童がよりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養えることができるようにしたい。

5単元の指導計画（9時間扱い）

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価方法・留意点等
1	1	あなたにとって、大切なものは何でしょうか。 ・学習支援ソフト「SKYMENU」で大切なものを挙げる。 ・茨城県でこれまでに発生した主な災害について知る。 ・茨城県や茨城町の東日本大震災の状況を知る。（写真、作文） ・資料から地震への対策や協力について考える。 ・もう一度大切なものを考え、「SKYMENU」に表す。 ・振り返りをOPPシートに記入する。 ・次時の学習問題を知る。	○			・避難訓練や自然災害の資料から、自然災害が身近なものと感じさせて、本時の学習に繋ぐ。 ・地震によって様々なことが起こることに気付けるようにする。 知①: 資料から必要な情報を読み取れているかを見取り、読み取りが不十分な児童には、読み取り方を確認したり、補助発問をしたりして読み取ることができるように助言する。【ノート】 態①: 学習に見通しをもったり、主体的に取り組んだりしているかを見取り、不十分な児童には茨城町の写真や児童の作文から他人事ではないと気付けるよう助言する。【OPPシート・観察】
	2	地震によって、わたしたちのくらしはどうなるのかを考え、学習問題をつくりましょう。 ・本時の学習問題について、「オクリンク」に記入する。 ・茨城町の住民満足度アンケート調査の結果を知る。 これまで地震のひがいを受け続けてきたのに、地震に対してなぜ茨城町の人々は安心してすごせているのでしょうか。 ・単元の学習問題の予想をOPPシートに記入する。 ・学習計画を立てる。（調べること、調べ方、まとめ方） ・振り返りをOPPシートに記入する。 ・家庭の地震に備えた取組を調べてくるように伝える。		○		・前時の学習を踏まえて、本時の学習問題を設定する。 ・アンケート調査では、なぜ2位に防災や救急の体制の項目があるのか考えさせることにより、疑問をもたせ、単元の学習問題をつくることができるようにする。 思①: 茨城町の特徴や前時の地震災害時における人々の様子に着目して、問いを見出したり予想を立てたりしているかを見取り、できていない児童には、前時の時間を振り返るよう助言する。 【ノート・タブレット（くらしを考えるカード）】 ・単元の終末には、茨城県防災・危機管理課の方が成果を聞いてくれることを伝え、単元を通して意欲が高められるようにする。 ・タブレットを使って、写真や文でまとめてくるようにする。
	3	家庭では、地震にそなえてどのような取り組みを行っているのでしょうか。 ・地震が起きる前と起きた後の2種類にカードの色を分ける。 ・グループで話し合い、カードを集め、全体で共有する。 家庭では、地震にそなえて準備をしたり、対策をしたりしている。 ・振り返りをOPPシートに記入する。 ・学校の地震に備えた取組を調べてくるように伝える。	○			・前時の学習を踏まえて、本時の学習問題を設定する。 ・家庭で撮った写真に色を付けて分けるようにすることで、起きる前の準備と起きた後の対策を分類しやすくする。 知①: 必要な情報を集め、家庭では、地震が起きる前の準備と起きた後の対策をしていることを理解しているかを見取り、理解できていない児童には友達に相談し、カードを集めるよう声をかける。 【ノート・タブレット（家庭調査カード）】 ・学校内で調べたことについて、タブレットで写真を撮ったり、文で書いたりして「オクリンク」のカードにまとめるようにする。
	4	学校では、地震にそなえてどのような取り組みを行っているのでしょうか。 ・調べたことを「オクリンク」で共有する。 ・児童の発表から、防災倉庫の存在に気付き、見学に行く。 学校には、地震にそなえて防災倉庫がせっちされている。また、学校では、ひなん訓練を行うなどしている。 ・振り返りをOPPシートに記入する。 ・次時は、茨城町役場の取組を学習することを伝える。		○		・前時の学習を踏まえて、本時の学習問題を設定する。 ・防災倉庫の中身を予想してから移動することで、見通しを立てて学習ができるようにする。 ・防災倉庫が町で設置されていることに気付けるようにする。 知①: 必要な情報を集め、学校でも地震に対する備えをしていることを理解しているかを見取り、理解できていない児童には友達に相談し、カードを集めるよう声をかける。 【タブレット（学校調査カード）・ノート】
	5	茨城町役場は、地震にそなえてどのような取り組みを行っているのでしょうか。 ・本時の学習問題に対する予想を立てる。 ・茨城町役場の取組について調べ、全体で共有する。 茨城町役場では、県や国とも連携し、防災計画などを作成したり、情報を発信したりしている。 ・振り返りをOPPシートに記入する。 ・次時は、地域の防災の取組を調べてくるように伝える。	○			・町には自衛隊などがないことから、本時の学習問題を設定する。 ・調べたことを「オクリンク」のカードにまとめ、避難所を地図に記入することで町の取組に気付けるようにする。 知①: 必要な情報を集め、町では、地震への準備や対策、県や国と連携をしていることを理解しているかを見取り、理解できていない児童には友達に相談し、カードを集めるよう声をかける。 【タブレット（茨城町役場調査カード）】 ・家庭でインタビューをし、タブレットにまとめるようにする。
	6	茨城町の人々は、地震にそなえてどのような取り組みを行っているのでしょうか。 ・家庭で調べたことについて共有する。 ・11月20日の防災訓練や自主防災組織について知る。 ・茨城町の取組に対して、自分にできることを考える。 茨城町の人々は、地震にそなえて防災訓練を行ったり、自主防災組織を作ったりして、協力している。 ・振り返りをOPPシートに記入する。		○		・茨城町の人口の特徴から、本時の学習問題を設定する。 ・家庭で調べたことについて「オクリンク」にまとめ、共有することで、茨城町の住民が取り組んでいることに気付けるようにする。 知①: 必要な情報を集め、茨城町に住む人々が町の助けを借りつつ、災害に対する準備や対策をしていることについて理解しているかを見取り、理解できていない児童には、友達に相談し、カードを集めるよう声をかける。 【タブレット（住民の取り組み調査カード）・ノート】
	7	これまで地震のひがいを受け続けてきたのに、地震に対してなぜ茨城町の人々は安心してすごせているのでしょうか。三助の考え方をもとに、まとめよう。 ・三助の考え方に沿って、Yチャートにまとめる。 ・単元の学習問題の答えをOPPシートに記入する。 ・振り返りをOPPシートに記入する。		◎		・前時までの学習を踏まえて本時の学習問題を設定する。 ・三助の考え方に沿ってYチャートに示すことで、地震を守るための取組を多角的に考えることができるようにする。 ・単元の学習問題に対して第2時の答えと比較する。 知②: 家庭や学校、町や住民が連携や協力をしながら、地震に対して、対策や準備をそれぞれの役割を果たしながら行っていることについて理解している。【三助シート・OPPシート】
2	8	大地震が起きたとき、あなたはどのような行動をとればよいでしょうか。防災プランを考えよう。 ・個人で防災プランを考える。 ・振り返りをOPPシートに記入する。 ・次時は、茨城県防災・危機管理課の方に発表すると伝える。			◎	・これまでの学習を踏まえて本時の学習問題を設定する。 ・OPPシートとYチャートを活用することで、これまでの学習成果を生かして防災プランを考えることができるようにする。 ・地図に避難経路を記入することで、想定しやすいようにする。 態①: 自然災害から人々を守る活動について、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。【観察・OPPシート】
	9	・本時の学習問題を確認する。（前時の続き） ・前時の学習で、個人で考えた防災プランを同じ地区同士の児童（石崎、広浦、長岡）で共有する。 ・全体で防災プランを共有する。 ・茨城県防災・危機管理課の方に助言をもらう。 ・助言を基に、防災プランをもう一度見直しをする。 ・振り返りをOPPシートに記入する。 ・作成した防災プランを家庭に持ち帰り、地震が起きたときの行動の仕方について話し合うように呼びかける。 ・家庭でOPPシートにコメントをもらう。			◎	・同じ地区に住む児童同士で防災プランの検討をすることで、地理的環境を踏まえて考えることができるようにする。 ・三つの地区の代表児童の防災プランを提示し、茨城県防災・危機管理課の方に助言をいただくことで、専門家の意見を踏まえたより安全な防災プランを作ることができるようにする。 思②: 学習したことを基に社会への関わり方を考え、適切に選択・判断している。【タブレット（防災プラン）・地図】 態②: 学習したことを基に、家庭や地域社会の一員として、大地震が起きたときにどのような行動をとればよいか考えようとしている。【観察・OPPシート】